

## 別記様式(第4条関係)

## 会 議 録

|                          |  |                    |
|--------------------------|--|--------------------|
| 会議の名称                    | 令和6年度第2回宍粟市男女共同参画審議会   |                    |
| 開催日時                     | 令和6年11月15日(金) 10:00~11:40  |                    |
| 開催場所                     | 宍粟市役所北庁舎 401 会議室   |                    |
| 議長(委員長・会長)<br>氏 名        | 中村会長   |                    |
| 委員<br>氏 名                | (出席者)<br>中村会長、宮本副会長、<br>車井委員(WEB 参加)、中本委員、<br>船元委員、早川委員、城田委員、  | (欠席者)<br>可藤委員、前田委員 |
| 事務局<br>氏 名               | 森本部長、西岡次長、池田人権推進課課長、嵐人権推進課副課長兼ダイバーシティ推進係長、野口人権推進課ダイバーシティ推進係市民相談員                                       |                    |
| 傍聴人数                     | 0人   |                    |
| 会議の公開・非公開の<br>区分及び非公開の理由 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開   | (非公開の理由)           |
| 決定事項                     | (議題及び決定事項)<br>1 開 会<br>2 会長あいさつ<br>3 議 事<br>(1)高校生アンケートの集計結果について<br>(2)プラン改訂について<br>4 事務局より報告<br>5 閉 会 |                    |
| 会議経過                     | 別紙のとおり   |                    |
| 会議資料等                    | 別紙のとおり   |                    |
| 議事録の確認                   | (委員長等)<br>__ 中 村 和 子 __  |                    |

(会議の経過)

| 発言者 | 課題・発言内容  |
|-----|--|
| 会長  | <p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>皆様、おはようございます。</p> <p>挨拶は短いほうが良いということをテレビで聞きながら来ましたが、一つだけ。</p> <p>この日曜日は選挙です。皆様、大丈夫だとは思いますが、ぜひ投票していただけたらと思っております。兵庫県政初めての激情型の混乱の選挙になっておりまして、誰を選ぶというのは自分の意志で選んでいただいたら良いですが、どうなるのかと非常に心配していました。県政が揺らぐということは、市町の行政もすごく揺らぐ。本当にしこりが残るような選挙になっていることが残念です。とはいえ、投票率は大事になってくるので、皆様どうぞ選挙に行ってください。</p> <p>それともう一つは、県政初めて女性の知事候補が立ったということが、男女共同参画ということ考えた上でも、兵庫県は第一歩進んでいると感じている次第です。だからと言って、女性に投票と言っているわけではなく、そこは自分で決めていただければと思います。</p> <p>では、議事を進めさせていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>事務局より、高校生アンケートの説明をお願いします。</p> |
| 会長  | <p>3 議 事</p> <p>(1)高校生アンケートの集計結果について</p> <p>～事務局より、高校生アンケートの集計結果について説明～</p> <p>面白いですね。</p>   |
| 事務局 | <p>面白い結果になりました。</p>  |
| 会長  | <p>わくわくします。</p> <p>では、何か御意見をいただきましょうか。質問も含めていかがですか。</p>  |
| 委員  | <p>質問項目の中で、高校生の性別以外の属性についてはあまり聞かれていない。例えば、母子家庭なのか、兄弟がどれぐらいいるのかだとか、祖父母と一緒に住んでいるか、そういう家庭環境的などは特に聞いてはいないのでしょうか。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | <p>その設問は設定しておりません。あくまで生徒単体での回答ということで、家庭環境、家族構成を尋ねる設問は設けずに実施しました。</p>   |
| 委員  | <p>あまり込み入ったことを聞いてしまうと回答率は下がったりする可能性があるのですが、それはそれでという気はしましたが、例えば、母子家庭がどうかということも含めて、母親も働いているのかどうかだとか、そのような環境が回答に影響を与えているのではないかという気がしたので、もしそこを聞いていれば、その辺りも見れたのかなというのが感想です。</p> <p>もう一つ、「将来の働き方として理想はどうか」というところで、女性と男性で差が出ている二つの項目が、三つ目の「家庭生活の充実を第一に考え」というところと、六つ目の「仕事と家庭を両立し」というところだと思います。少し気になったのが、「家庭生活の充実を第一に考え」というところの、この男性の割合を高くするというのが一つ目標にはなるとは思いますが、女性の回答がすごく少ないのが気になりました。男性の割合を上げていくのが目標ではありますが、女性の割合がかなり低いところも個人的にはすごく気になり、逆に「仕事と家庭を両立し」の女性の割合がぐんと高くなっているところが、高校生の女子の感覚が「結婚したら働くんだ」、「家庭よりも仕事だ」のような感じになっているのかなというのが、この回答から感じた部分です。</p> |
| 会長  | <p>文章のつくり方だと思います。前回の会議で「地方女子プロジェクト」を見ていただきましたが、あれもどんどん情報が集まってくる中で、今、本当に女性たちは働きたいんだということが分かってきました。文章でどちらも「充実した生活」の先に「働き方をしたい」というのがこのメインの価値観で、だから女子が上がっていると思います。今、女性は働きたいのです。でも、結婚が良いかと思うから、ここが高くなっているのではないかと思います。仕事を無理のない範囲でしたいというのは、働くことは二の次にしようという感覚なので、ここは女性は選ばないと思います。私はこのことに関してはそう思いました。</p>   |
| 委員  | <p>ありがとうございます。</p>   |
| 会長  | <p>男女の平等感というところは、事務局が分析したとおりかと思います。</p> <p>私がとても気になったのは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というところで、「わからない」と答えた割合が男子も女子も高い。高校生はキャリア教育で勉強しており、知識も含めていろいろな意味合いで割合は上がっています。でも、この「わからない」という層がすごく気になり、自分でそれぞれ考えを持って将来のことを考えて働くだとか、やはり女性は家庭に入るなんてことはまず考えていないというのは見えてますが、この「わからない」という層をターゲットに何かできないか、こ</p>   |

|      |  |
|------|--|
| 委員   | <p>れも学校の仕事かと思ったりもしたのが1点です。</p> <p>それと、高校生の親が宍粟市とは限らないですが、男性がほぼ3分の1の家庭で家事参画している。そんなにしていますか。</p>   |
| 会長   | <p>してると思う。</p> <p>現行のプランを策定するときのデータが、「宍粟市の男性は、本当に何もしていない」みたいなデータだった様に思い、思い込みかもしれないですが、こんなに変わったのだと。年齢層だと思いますが、一般のデータだと高齢者が多くなるので、そうだったのだと思いますが、コンサルタントが旧4町、4地域のデータを出したのですが、ある地域はものすごく低い意識でした。大きな祭りのあるところはそうなりますが、昨日このデータを見てびっくりしました。皆様、実感はありますでしょうか。</p> <p>それと、家庭における役割分担に「自分」というものもあります。食事の用意・片づけとか自分でできる子が多いと思いました。健全な家庭で育った先に、先ほど委員が「どのような家庭環境なのか」と意見があったのも含めて健全かと考えると、20%の子どもがアンケートに回答してないので気になるころではあります。</p> <p>なぜ答えなかったのでしょうか。</p> |
| 事務局  | <p>そこは恐らく、このアンケートは学校にまとめてお願いしていますが、クラス数であったり、そこから担当の先生に振り分けでお願いが先に渡っていく中で、あるクラスは答えれていないけれども、ほかのクラスはみんな答えたとかというようなことなのかという気はしています。</p>  |
| 中村会長 | <p>でも、222人しかいない。</p>   |
| 事務局  | <p>山崎高校が6クラスぐらい。</p>   |
| 中村会長 | <p>1学年。</p>  |
| 事務局  | <p>伊和高校、千種高校が1クラスなので。</p>  |
| 事務局  | <p>1クラス20人。</p>  |
| 事務局  | <p>実は今回、同じタイミングで宍粟市の総合計画のアンケートもしています。同じ回答割合だったので、多分アンケートの回収までのプロセスの中で抜け落ちたのかと思っています。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 会長  | 担当の先生によるということでしょうか。  |
| 事務局 | そういうことだと思います。  |
| 会長  | それはよくあります。   |
| 事務局 | 学校に頼むということで、回答率に期待していたのですが、「これ、多分どこかで配り忘れてる」という結果になりました。   |
| 会長  | これぐらいの量であれば、学校の終わりの時や朝に、一斉に10分でやってしまうと言って、実施してくれたところは早かったです。<br>20%答えてないと、ここに何かあるかもしれないというのは若干思うところです。   |
| 事務局 | そういう事情があったのではないかと推測しております。   |
| 会長  | 高校生は男性の育児休業は勉強しているのでしょうか。<br>家庭科でだったと思いますが、実施しているのかと思いましたが、でも、お互いに育児休業を取って子どもを育てるというのも回答数が高いので、もう知っているのかと。   |
| 事務局 | アンケートを配ったときに、「育児休業とはこういうものです」という説明書きは添えました。ひょっとしたらそれを読んで、「そういうのがある」という前提で答えているのかもしれませんが、確かに、その制度はどの程度学校の中で学びを得たのか、親や知り合いからの情報なのか、自分たちが自ら学んだものかが分かりませんが、説明書きで入れています。  |
| 会長  | 高校の先生は、育休は取りやすい職場でもあります。ひょっとしたら育休を取っている先生を知っているのかもしれませんが。  |
| 事務局 | 先ほど、事務局から総括的なところで、高校生世代の男女の平等感が、アンケート結果から18歳以上の結果より高いということがありましたが、会長はさまざまな市町に入ってこういうアンケートを取られているのをご存じかと思いますが、宍粟市の高校生のアンケート結果からこの状況を見た中で、これは全国的な流れでこういう結果なのか、もしくは宍粟市の幼い頃からの教育が積み重なって良い傾向なのかどうなのか。それと、現在、宍粟市の人権推進課が男女共同参画をいろいろと進めている中でこの結果になっているのか、宍粟市の特徴として「いや、まだまだ低いですよ」、「いや、宍粟市は高いですよ」というところのことが分かれば教えていただき |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>会長</p> | <p>たいです。</p> <p>委員にも後でコメントをいただけたらと思いますが、ぱっと見て思ったのは、すごく学びが進んでいると思いました。</p> <p>例えば、用語の認知度もすごく高く、中高で頑張ってくださいている。高校はカリキュラムの中に入っているの最近をよくやってくれていますが、中学生で学びが進んでいるということが、一番に印象を持ちました。申し訳ないですが、中学校ではあまりやってくれない。それぞれ担任の先生の力量や関心で左右されると感じます。</p> <p>でも、このデータを見ると、学校でしっかり学んでいると思いました。どこの高校で調査しても、今の子どもたちは男子のほうが家事・育児をやりたいという意識が高く、女子は働きたいという意識が高くて、その傾向は揺るがない。それにもしっかり合致してくるので、もちろん男女共同参画センターがしっかりと社会的なところを動かすことは、機運をつくっていることも大きくありますが、やはり学校教育が充実していると思うと違います。</p> <p>いつもプランを策定するときに、高齢者の回答率が半分みたいなプランを策定しないといけないという、あのジレンマを何とかできないかと思っていますが、でも、若い人たち、高校生の意見がこれだということがすごく価値があると思っています。本当に一手間かかりますが。</p> <p>200人あったら、データとしては信憑性が高いと言われてはいますが。</p> <p>委員、大学生の様子もよく見ていただいていると思いますがいかがですか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>先ほどの話を聞いて思ったのが、高校生の平等感を見て、この感覚が大学に来ると多少は変わるだろうと思っています。</p> <p>例えば、中高だとクラスが決まっていて、男女の数が大体同じで、ある程度担任の先生なりの目が行き届いているところもあり、男女の違いであったりだとか差別的なところが極力減らされているだろうという感覚はあります。大学になると、学部にもよりますが、男女比は大きく変わってきますし、男女で感覚の差別的なものがないかどうかみたいなのは、教員が関われる部分はもちろん気にはして、ゼミの中で男女比がどうなるかということも意識はして考えてはいますが、それ以外の目が届かない部分が、高校生までと比べるとかなり大きくなっていくので、そういうところでもしかしたらこの平等感みたいなものは、大学生になると少し下がってくるかもしれないというのが一つ。</p> <p>あと、就職活動をしていく中では、差別というわけではないですが女性が不利であるということを感じているところはいまだにあるので、その辺りでも男女の平等感の感覚は、大学になると少し弱くなっていくかもしれないなどは感じています。</p>   |

|            |   |
|------------|---|
| <p>会長</p>  | <p>そうですね。</p> <p>女性が初めて学生生活を過ごすなかで、「えっ？」と思うのは就職活動だと思います。それこそ男女雇用機会均等法があり、女性は表向きには募集しているが、今年は女性は採らないという方針を持っている企業を本当によく聞きます。</p> <p>だから、そういう「男性を採っていき、女性は・・・」というのはあると思うので、そういうのに直面したときに女性は初めて「社会はこうなんだ」ということを思う。まだ残っている可能性はあります。でも、今の子どもたちは幸せな状況というか、それでも社会を見ているというのは、やはり社会全体としての男女平等感とか法律というところを学んでいるからこういう意識になっていると思います。</p> <p>このデータもプランに反映されているのでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>また後でも出てきますが、総括の中で、「男女を取り巻く偏見や慣習の解消に向けた施策の展開を図る必要がある」は、先ほどの委員のご意見だとか、会長のお言葉からも、やはりいつか、現在受けている男女共同参画を進める上での慣習等のギャップにぶち当たるときがあると思いき、そのギャップをなくすことを大きな目標にした計画にしなければならないと思っていますので、そこは重点施策として入れていきたいと思っています。</p>  |
| <p>会長</p>  | <p>本当にそうです。地方の女性が都市部へ出て、逃げて行くのは本当に三つの理由があり、「働く場所」と「文化のインフラが田舎はない」と、三つ目が「ジェンダーギャップ」で、ほぼ女性たちはジェンダーギャップを最初に言います。それと「働く」というところで、田舎には自分が働きたい場所がない、仕事がないということ。そこを解消していくことは、若い人たちが故郷に残っていくという選択肢に一番大きいかと思っています。</p> <p>では次に、プラン改訂のプランのほう、お願いします。</p> <p>3 議 事<br/> (2)プラン改訂について<br/> ～事務局より、プラン改訂について説明～</p>   |
| <p>会長</p>  | <p>ここが一番大事なところですので、皆様どうでしょうか。</p>   |
| <p>委員</p>  | <p>高校生のアンケートで、男性、お父さんのほうが家事の分担をすごくされているのを、私もすごくびっくりして、私の時代から一世代、二世代下になるので、そんなふうに変ったのだと、感動ではないですがうれしくて。</p> <p>この間、中学校の文化祭に行く機会がありましたが、中学校2年生の学年がジェンダーのことについてしていました。だから、中学校でも力を入れてくださっているの</p>   |

|            |  |
|------------|--|
| <p>会長</p>  | <p>がこことつながって、それが生きてきているのかとすごく思いました。</p> <p>先ほどの「中学生以下の子どもがいる男性のうち、家事・子育てに費やしている時間が1日に2時間以上の割合」の目標値は、もっと上がったらいいかと、そんなことを思いました。</p> <p>私もそこは思いました。新しい数値を設定するのに、しかも高校生の数値を見たら、「40%でもいけるし、50%でもいけるのではないか」と思ったぐらいです。</p> <p>5だけ上げるって。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>少し控えすぎですか。</p>  |
| <p>会長</p>  | <p>どうでしょうか。</p> <p>基本的に目標は達成しないものだから、高いところに向かって行くけど行けませんでしたというのと、目標を下げてだったら角度が違う。</p> <p>変更しますか。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>もっと皆様の御意見を聞いてから変えたいと思います。</p>   |
| <p>会長</p>  | <p>皆様どうですか。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>うちは夫がよく家事をしてくれるので。そんな意味では、こんなに低いのかと。</p> <p>ですので、やはり男性から発信をしないと。「おまえも家事をしているのか、そういう時代だよな」という感じに巻き込んでいかないと、「女性が男性に家事を押し付けている姿」で終わってしまうので、その伝え方ではなくて、伝える人がどこにいるのかもとても大事かと。身近な男性が家事育児していると言ったら、周りの人は「男性が家事育児をするなんて」と焦り出して、離婚問題につながりかねないみたいな。</p> <p>消防団員同士でもよくそういう話をするようなので、やはり「何で家事せえへんの？」みたいな、家事をすることを当たり前のものにして話してみたりしているそうです。離婚問題の話を聞いたりして、この女性に問題があるのか男性に問題があるのか、一方の話を聞いているだけでは分からないですが、その家庭に平和が訪れるには、男性の家事育児力は大いにあると思います。子どもたちの笑顔にもつながっていますし、そういったところが男性に伝われば良いと思います。</p> <p>30%だと世代が代わるので、目標値は達成できるのではないかという感覚です。</p> <p>あと、少し気になったところで、高校生のアンケートの「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で、高校生にかかわらず「べきである」という結構強い言葉のアンケートでしたが、「賛成」が7%で、「どちらかといえば賛成」を合わせて16%は意外に高いと思いました。「べき」と男性側が思っているのは、男性の責任の強さであっ</p> |

|           |  |
|-----------|--|
|           | <p>たり、家庭で男性がやらないといけないというところを懇々とと言われて、離婚率につながる、それが全うできない、それでなかなか社会が解消できない世の中になってきているので、これだけ稼がないと家庭を持ってないみたいな構造にもつながりかねないかと。女性がバリバリ仕事をやりたいと言っても、男性が「べき」と思っているのでは、なかなか歩み寄れないし、結婚とかそういう相手をしていく上で、何かもっと解消されたら良いという感じがしました。</p>  |
| <p>会長</p> | <p>随分前ですが、近くの市で私立も含めて高校2年生全員アンケートを実施し、学校別で集計しました。そうしたらある学校の男子の統計は偏りがありました。それはもう「(性別役割分担意識が)当たり前」みたいな数字が出て。25年ぐらい前の話でするので変わっていると思いますが、あのときはすごくそのことが衝撃で、自分がエリートというか、エリートになりたいとか、なろうと思っている男子はこういう考え方に陥りやすいのかと、私自身が偏見を持ってしまいました。</p> <p>ここも気になります。本当に「わからない」と回答した子どもと、この男子の16%、そんなに頑張っ生きてなくても良いと言いたい気もします。</p>         |
| <p>委員</p> | <p>全体的にですが、女の人の仕事をするような流れになっていると思うので、出産したときに、父親と母親に教えてもらっておらず、学校に教わるという感じで。出産して家族になるという教育を私たちは教えてもらってないので、できたら出産したときに、パパママ教室みたいな感じが今でもあると思いますが、そのときに男の人は男の人、女の方は女の人ではなく、一緒に共同生活というか、家族をつくっていく目標というか、そういう教育を実施する。</p> <p>あと、育休は希望した人だけで、企業で男の人が育休を取るの、その企業も出産された方には必ず強制的に育休を1か月取らせる感じにしないと、そういうのは無理かと思ったりしています。</p> |
| <p>会長</p> | <p>おっしゃるとおり、男性育休は今、国も必死です。この2025年4月から妻も夫も1か月取ったら男性の給料は100%保証するとなります。2か月取っても80%は出ますが、みなさん案外と知らないようです。</p>   |
| <p>委員</p> | <p>宍粟市も会社もそうですが、今はそうなっているのですね。</p>   |
| <p>会長</p> | <p>はい。昨日か一昨日に育児休暇の話をしてきましたが、自治体、市役所だったら研修すれば数字が跳ね上がります。管理職は管理職、職員は職員といって研修をしますが、宍粟市も確か実施されています。宍粟市もある程度高いと思いますが、実施していないところだったら明らかに違います。なぜかと言うと、知識がない。育休を取りたい側は「給料がなくなる」と思っているし、雇主側も「人がいなくなったらど</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | <p>うする」みたいな話があったような感じです。</p> <p>絶対に男性の育児休業は必要です。でも、国が決めないと。自治体だけではできない。</p> <p>あと、「男性の育児休業」の言葉は、どこかに入っているのでしょうか。</p> <p>それは別計画の中で記載しているので、この中で男性の育児取得率ということでは具体には記載していません。</p>   |
| 会長  | <p>「しろうさきゆりプラン」でしょうか。</p>  |
| 事務局 | <p>そうです。</p>   |
| 会長  | <p>特定事業主行動計画の中では。</p>  |
| 事務局 | <p>もちろんあります。</p>   |
| 会長  | <p>そうだと思います。ただ、この計画は令和11年まででしょう。</p> <p>男性が家事参画していくというベースは、男性の育児休暇だと言って国もそこしか方法がないみたいに思っているみたいで。</p> <p>どこかに入れることがあれば、入れておいたほうが良いかと思います。市役所内の特定事業主行動計画で明確にしているのですが、入れておけば企業への啓発をできるのです。</p>  |
| 事務局 | <p>そうですね。経済のところで、育児休業だけにかかわらず様々なワーク・ライフ・バランスの制度を周知していきますという箇所、今は啓発レベルの表現で留まっているもの現実です。</p> <p>育児休業のところも、もちろん市役所の部分を書き込むことは簡単ですが、民間への波及を一番の目的にするのであれば、経済分野における両立支援のところに書き込むことになるかと思います。「男性の育児休業の取得推進」という言葉も入れさせていただいておりまして、両立支援の取組の推進ということで、その各施策を示しているところではあります。先ほどご意見をいただいた「しろうさきゆりプラン」についても記載しています。</p> <p>そこに市職員のワーク・ライフ・バランス、そこには男性の育児休業も含めたワーク・ライフ・バランスという視点での子育て支援制度の周知、休暇の取得促進を行いますということで記載させていただいています。これを民間企業に波及させていくところについては私自身もとても難しいと思っており、それこそ今年度、商工会と共催という形で企業に向けた女性活躍推進であったり、アンコンシャスバイアスの視点に</p> |

|            |   |
|------------|---|
| <p>会長</p>  | <p>ついでにセミナーを開催させていただいたところではありますが、来年度以降にも連携できる事業について御相談させていただきたいという想いは持っております。</p> <p>そういう中で実際、民間の企業が男性の育児休業の視点をどのようにお考えになられているか、実際、行政側は把握ができていない。今回、5月に事業者アンケートを実施しましたが、そういう中でも積極性のある回答はなかなか見いだせなかったというのが感想です。そういう中で、育児休業制度を民間の市内の企業に浸透させていく、背景のところも含めですが、その整備がとても重要になってくるかと思いません。</p> <p>とはいえ、男性の育児休業は今一番のスポットです。</p> <p>中小企業でも様々な方法を考えて実施している。なぜかと言うと人材不足で。</p> <p>男性の育休が取れないところは誰も来ない、女性も。だから、このプランに謳わなかったら行政が動けない。</p> <p>難しいのは、みんなそこを悩んでいる、企業に啓発していくのはとても難しいですが、プランに謳っておかないと行政は根拠を持たないことになるから動けない。だから、希望として、いろいろな意味で行政が方針を出してくれたら「動こうかな」みたいになり、「行政が出してくれ」と言う人もいました。トップダウンなのかボトムアップなのかという話ですが、両方必要だと思うので、私はどこかに入れるべきではないかと思っています。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>行政側がメッセージも併せて出していくとすると、ポイントを絞って、家事のことなのか育児のことなのか仕事のことなのか、はっきりした明確な言葉を出しての啓発、というほうが実施しやすさは確かにあります。</p>  |
| <p>会長</p>  | <p>男性の育児休業というのが、結局は全ての解決に向かうのではないかと。</p> <p>男性育休で生き方が変わるというのは取った男性はみんな言っているので、夫婦関係も変わる。</p> <p>先ほど委員のご発言のなかで離婚と言っていましたが、今、離婚は結婚後3年ないし5年がピークで。なぜかという子どもができたときに「この人との関係は続かない」となるようで。それが多いということなので、逆に言えば一緒に育児休業を取って育児の戦友になることで、夫婦は恋人関係から夫婦と向き合う感じになれると。</p> <p>やはりここを入れるべきではないでしょうか。一番上が「家庭生活と仕事の両立を推進するための啓発を行います」ということなので。「男性の育児休業についても啓発を進めます」みたいな文言を入れたら、キーポイントだと思います。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>積極的に入れていきたいと思っています。</p>  |

|    |   |
|----|---|
| 委員 | <p>先ほどから男性の育休のことを言われている中で、最近是人材不足の関係で、どうしても育休の整備、労働環境の整備を大事に考えている企業は増えてきていると思います。今年もいろいろと男女共同参画の関係で人権推進課とセミナーを共同で実施させていただいたりしていますが、その中でも、男性育休をほぼ100%にするという企業も実際に宍粟市の中にもおられますので、近況自体がだんだんと少しずつ変わっている、浸透もしてきているのではないかと思います。</p> <p>ですので、育休に関してはこれからだんだんと増えていくと思いますが、ただ、企業規模にもよります。どうしても代替の要員がないところ、実際に我々が関係いただいている企業のほとんどがそういう代替要因のないところで、その中で育休を取られるというところも実際に経営者としては悩ましいところではあるかと。その中で、代替の要員の確保方法であるとか、何かしらの制度であるという部分が整っていけば、また違う結果も出てくるかというところではあります、人的確保的なところなので難しい。そういう意味で政府の効率化のためのシステムを入れたりしてはいますが、ただ、実際に教育の中でだんだんと働く意識や制度が変化していく中で、世代が代わってきてそういうところは変化していると我々も感じていますので、商工会も青年部といって若い子の集まりがありますが、青年部の部員に聞いて、部員の中でも当たり前のように家事参画しているという子もいるので、肌感覚としては昔から男性の家事育児に対するイメージは変わってきている。あと、人材不足の関係で、企業としてはどうしても労働環境を整えて人を呼び込みたいという思いがあるので、少しずつそういうところは広がっていくのではないかという印象です。</p> |
| 会長 | <p>ここ1年、2年ですごく感覚が変わりましたね。</p>   |
| 委員 | <p>変わりました。</p>  |
| 会長 | <p>国が2025年4月からという方針が呼び水になった感じがします。<br/>ただ、中小企業の「小規模」がしんどいですよね。</p>  |
| 委員 | <p>小規模の事業者に関してはかなりきついところではあると思います。<br/>実際、働き方改革といって、従業員を働かせられないので経営者に負担がたまっていくところも一部ではあると思います。</p>  |
| 会長 | <p>学校現場もそうです。学校の先生は育休が取りやすいかと思いますが、代替の先生がない。本当に人口減をひしひしと感じます。</p>   |
| 委員 | <p>皆様、報道等によく御存じだとおもいますが、教員不足で、全国的に非常に大きな</p>  |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>課題になっています。実際に未配置と言いまして、教員がいないところで授業が進められて、極端な例で言えば、1人の教師が2学級を一緒に授業するようなことも全国的には起こっている。宍粟市でも同様なことが起こってます。</p> <p>例えば、育児休業の方、病気休暇を取られる方が出たら、代替職員(臨時で来てくださる方)にその仕事を担っていただきますが、その方が全国的に数が足りなくなってしまう。だから配置ができなく欠員が出たまま年が進んでいってしまう。</p> <p>最近、やっと国が動き出しまして、育児休暇を取られる方に正規の職員を配当されるということを国がやっと考え出した。すると、例えば4月から育児休暇を取りますと申請すれば、その分正規の職員を配当するということできれば、臨時の方がおられなくても何とかなる。今、一番問題になっているのが臨時で務めてくださる方が全国的に数が少なくなっているの、緊急に年度途中で入ってくださる人がなくて困っている。このように国が動いて制度をつくることをしない限り、やはり現場はなかなか個人の努力だけでは変わっていかない。実際に私の職場や市内の職場でも、子どもがいて育休真っ最中で、家庭を持っている教職員の方もいますが、非常によく頑張っておられると思います。仕事も頑張り、家庭、子育ても頑張らせていますが、明らかに昔とは男性の受け方が、育児に参加して保育所のお迎えと送りも両親と関わっていくということになっています。単純なことを言いますと、私もこの仕事をしてから40年近くたちますが、その頃と今でどれだけ変わっているか。簡単なことと言えば、昔は男の子、女の子、並んで出席番号も別々でしたが、途中からそれが変わっていきました。男女分けるのに意味もないし分けるものではないということが全国的に取り組みされて変わってきました。学校教育の中で男女の違いを学ぶこと、役割のことを学んだりもするようになりました。だから、高校生がこんな意識を持てるようになっていいるのだろうと。</p> <p>そして人や若い世代も変わってきたのだろうと思いますので、今の現状を学校教育で続けていくなれば、子どもたちの意識は、正しい認識で変わっているの、そう考えれば数値が上がらないと。</p> <p>教育の力は大きいです。何回も言いますが、家庭科が必修になった世代が、今45歳になりました。そこから若い世代は中学校は家庭科は必修です。男性の意識が断層のように違い、教育の力はすごいと思います。</p> <p>私の友人はペーパー教師だったのですが、兵庫県教育委員会はペーパー教師を集合させて、その人たちを採用して就職でというのも実施しており、今は小学校2校を回っています。それぐらいしないと人材がないです。</p> |
| 会長  |  |
| 事務局 | <p>先ほど、会長がおっしゃられたように、私の世代から中学校、高校と男女共修になっています。ですので、その代が高校生や中学生の親世代になるかと思ひますし、私の年齢を当てはめるとしたら、企業の中では上のほうに立てるようになってきてい</p>  |

|            |  |
|------------|--|
| <p>会長</p>  | <p>と思うので、この目標値は、期待を込めてもう少し上げて良いかと思います。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>私もそう思います。</p> <p>皆様のお話を実際にお伺いして、事務局としてはどうしても達成可能なところも見せつつというのが、ここはバイアスだと私自身も思いましたが、今の子どもたちの学びが続いていく上ではこの割合は未来に向かって高くなるという意見をいただくと、この30%は低いと思います。そんな中、では、この男性の家事・育児参画が現実としてどのぐらいの目標値で設定をしようかなと悩んでいるところで、これもまた意見をいただきたいところではありますが、では、この令和11年度の目標値は10%上げて40%という目標値も遠過ぎる数値でもないのかと思っていますがいかがでしょうか。</p> |
| <p>会長</p>  | <p>40%で良いのではないのでしょうか。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>ここに限らず、数字の決め方がすごく難しいと思って見ていましたが、何が妥当かは本当に難しい。基本的には目標値は核ですよ。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>そうです。</p>   |
| <p>委員</p>  | <p>令和11年までにどこまでいくかを考えて、ということですよ。</p> <p>今の25.5%という数字を見ると、30%はすごく安全圏な感じがするので、やはり40%、50%ぐらいの数字を書きしておくほうが、この22.5%に対しては良いかという感じはあります。</p> <p>ついでにお聞きしたいのが、「市役所における女性管理職の割合」のところ、20%を33%に変えた、この33%は3分の1というイメージですか。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p>これは、国が示している国の組織の本庁職の課長職以上を33%を目標にしているという数値を参考にしたいという意味です。確かに、割合で言うと3人に1人がという形式になるかと思いますが、数値として持ってきたのはそこを根拠に持ってきております。</p>   |
| <p>委員</p>  | <p>例えば78%とか58%とかという数字があるときに、切り上げて80ではないかという素朴な疑問で。</p> <p>33%は多分3分の1かと思っていましたが、国の数値が参考になっているということで理解しました。</p>  |

|     |   |
|-----|---|
| 会長  | 男性の家事育児の割合の目標値は、50%というところに落ち着くのですか。   |
| 事務局 | 40%としたいと思います。   |
| 会長  | 皆様、それでよろしいでしょうか。  |
| 事務局 | 安全圏を狙い過ぎましたということで、これからの施策のところ、もちろんここも重点施策の一つにはなってきますので、実際に事業をやっていく中でも目標に掲げやすい、ここを目標に数値を持ってくるからこの事業をやると、こちら側、事務局側も考えやすくなりました。  |
| 会長  | <p>少なくとも、今議論いただいている目標値のことは、男性育休にもものすごく関連していると思います。</p> <p>取得率も絶対に関連すると思います。子育てに関わるから家事も育児もやろうと思うので。</p> <p>では、皆様、もうよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、事務局にお返しいたします。</p>   |
| 事務局 | <p>4 事務局より報告</p> <p>そうしましたら、先ほどの修正点です。</p> <p>1点目、政策の方向の中に「男性の育児休業」、「家事参画」について記載をしていくということ、あとは数値目標です。30%ではなく40%を目指すということで修正をさせていただきます。</p> <p>あと、本文の中ですが、実際、目標値の修正と施策の方向性の一部修正ということで、あとは文章の校正、そういった細かい点については事務局で訂正をさせていただきたいと思います。</p> <p>これからの審議会の予定ですが、今度はこちら、今回御意見をいただいた内容を修正したものを12月に皆様に書面でお送りをさせていただいて、審議会を書面開催という形で実施させていただきたいと思っております。今回、受けた御意見などを直したものを皆様にお示しさせていただいて、修正箇所等がありましたら、期日までに御連絡、御意見をいただくという形で最終形をつくっていきたいと思っております。</p> <p>その後、市長への報告は事務局からさせていただくという流れの中で、新たな令和7年度からのプランを一部改訂の作業を終了していくという流れで進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。</p> |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | <p>5 閉 会</p> <p>令和6年度第2回のこの審議会の中でアンケートを踏まえて皆様に御審議等をいただきました。先ほどありましたように、最後は書面等でのやり取りになりますが、よろしく願いいたします。このプランの改訂に向けてアンケートを取っていくということで、令和6年度の進め方で市長がアンケートの結果を少し心配していたところがありました。というのは、やはり数値で見えてくるところなので、果たして自分自身が取り組んできた施策であつたりだとか、担当部署での取組がどこまで確認できているのかということで少し不安があつたのかなというところを予算協議の中で少し思っていました。</p> <p>高校生のアンケートについては、先ほどのお話にもありましたが、宍粟市の教育が響いたのか、あるいは数値的なものになってきている、加えて国の流れもそうですし、数字を見た中では私ども事務局としてもほっとしております。</p> <p>と言っても、常々さまざまな人権を含む施策の中で思っているのは、教育とか知識、そういった頭に覚えたもの、情報に入れたものは必ず行動に起こす前に必要ですが、いかにそれを自分のものとして行動に移していくかが大事なので、必ずその表面的な数字だけではなくて実践できるような人づくりとかまちづくりが大切だと思っております。皆様も本日、委員として御参画いただいたので、また地域や職場でそれぞれ広めていっていただきたいと思っており、それが実践につながることを願っております。</p> |
| 事務局 | <p>そうしましたら、本日はこれで閉会とさせていただきます。</p> <p>貴重な御意見をたくさんいただきましてありがとうございました。また今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>本日はお疲れさまでした。</p>  |